

演題：緊迫する北朝鮮軍事情勢

大阪倶楽部様用

軍事・情報戦略研究所長（軍事アナリスト） 西村金一

北朝鮮は、今年の9月3日に爆発規模160ktの核実験を行った。この爆発規模だと、ブースト型核分裂爆弾（強化型原爆）と評価できる。爆発効率がよいこのタイプの原爆の開発を完了したことは、核兵器の小型化・軽量化が可能となることを意味している。また、北朝鮮は現在、米国に届くICBMの開発の最終段階に入っている。

米国と北朝鮮の2国間関係では、軍事的危機に突入か交渉かのぎりぎりの状態にある。ここに来て、交渉を始め合意に達するのか、あるいは南北間で紛争になり、北朝鮮と米韓がミサイルを撃ち合うような戦いになるのか。北朝鮮の軍事能力の側面から、緊迫した南北関係と今後の予測を解説する。

特に、北朝鮮の軍事力を重点にお話します。

1. 北朝鮮の核兵器開発

(1) 9月3日の核実験の評価

北朝鮮の核実験結果について、日本の防衛省は160kt、韓国国防省は50ktと評価した。防衛省は、当初70kt、次に120kt、3度目には160ktと評価を修正し、通常原爆かブースト型爆弾の可能性、さらに水爆の可能性も否定できないとした。

私は、ブースト型の核実験に成功したと評価している。

その理由は：

(2) ブースト型に成功したことの意味

- ・5tの広島型原爆を1tまで、小型化・軽量化できた。
- ・日本に向けられる「ノドンミサイル」に搭載ができる。
- ・日本への核ミサイルの脅威が現実のものとなった。
- ・米国の半分まで飛翔できる火星14号にも、核ミサイルが搭載できる。だが、火星14号に核兵器を搭載すると、弾頭部の重量が重くなり、その分飛翔距離が短くなり、米国本土まで到達できない可能性がある。

(3) 日本の防衛

- ・ミサイル防衛を充実させる。イージス艦を増加、イージス艦に搭載しているSM3ミサイルを陸上型（イージスアショア）にする。
- ・敵地攻撃能力を身に付けて、北朝鮮の核ミサイル攻撃を抑止する能力を保有する。
- ・日米同盟の強化。米国の核の傘が本当に日本を覆ってくれること、北の核兵器の脅威に日本が守られること。

- ・日本としても米国を守る役割が求められる。自衛隊に、米軍を守る要請が増える。
- ・今後、米国が、同盟国である日本、韓国、フィリピンなどを守る意思があるか、いろいろ試される場面が出て来る。

2. 北朝鮮の核ミサイル攻撃の可能性

(1) 核ミサイル開発を成功させたからといって、金正恩は、核ミサイルを日本や韓国にやみくもに打ち込んでくるのか

- ・北朝鮮は、日本や韓国にミサイルを打ち込む能力を身に付けた。米国全土にはまだ届かない。
- ・金正恩は米国と戦争をしたいのか
- ・核ミサイルを保有することによって、金正恩体制を維持したい
- ・北朝鮮は、米国から、「金正恩体制を崩壊させる動きはしない」「北朝鮮を攻撃しない」という保証を取りたい。

(2) 北朝鮮の各種ミサイルの評価（北朝鮮のミサイルの実力と嘘）

- ・米国本土に向けられるミサイル
- ・米国のグアムやハワイに向けられるミサイル
- ・日本本土や沖縄に向けられるミサイル
- ・韓国に向けられるミサイル

(3) 電磁パルス（EMP）攻撃はあるか

- ・電磁パルス攻撃とは
- ・電磁パルス攻撃はあるか

3. 北朝鮮の軍事力を分析する

軍事力のイメージは（戦いの勝敗は、どうして決まるのか）

- ・兵器の数量で比較してみると
- ・旧式兵器と近代的兵器で戦うと、どうなるか

(1) 兵器の数量比較

- ・南北軍兵力を数量で単純比較すると
- ・近代兵器の量だけを比較すると
- ・米軍の2個空母機動打撃群を入れると
- ・数量で見ると、北朝鮮が韓国軍の2倍であるが、韓国軍に勝てる戦力ではない。また、北朝鮮軍は旧式兵器であり、正攻法では勝てないために、主に欺騙・陽動作戦で攻撃を仕掛けて来るであろう。

- ・北朝鮮海空軍は、米韓軍に数日で、破壊されてしまう

(2) 北朝鮮の南侵（挑発）時の様相

- ・空軍が戦うとどうなるのか
空対空ミサイルを使用したドッグファイト
- ・海軍が戦うとどうなるのか
北朝鮮の軍艦がどれほど古いのか
北朝鮮の軍艦が戦うとどうなるのか
北朝鮮海軍は、どんな作戦で戦うのか
- ・地上軍の長射程砲とロケット攻撃は、どうなるのか
- ・特殊部隊が攻撃すると
特殊部隊とは
どうやって来るのか
- ・化学兵器で攻撃すると、どうなるのか
使用される可能性があるマスタードとは、どのようなものか
金正男殺害事件

(3) 地上侵攻作戦の様相

- ・特殊部隊の潜入（韓国、そして日本にも）
- ・主にソウルを目指して侵攻する
- ・北朝鮮軍の現在の能力では、作戦が上手くいったとしても、漢江を超えることは不可能に近い
- ・この時、日本人の救出は、ほぼ不可能

まとめ

北朝鮮という国は、交渉できる国なのか

(1) 過去の事例から見ると

- ・北朝鮮軍等による軍事行動・軍事挑発を長年実施してきた。また、多くの日本人、外国人を拉致してきた。「テロ国家」「ならず者国家」だ
- ・03年、米国情報偵察機への接近、欺騙（騙し討ち）
- ・米朝合意を守らなかった。核・ミサイルを継続してきた。その結果が、現在の状態だ。

(2) 北朝鮮とは、交渉ができるのか、約束を守らない国と交渉することに意味があるのか。